



ILMR

NEWSLETTER

No. 23

発行
2015年12月28日

佐賀大学 低平地沿岸海域研究センター ニュースレター

CONTENTS

- 流域治水に関する勉強会の開催報告
- ミニシンポジウム「クラゲがすくった水族館：どん底からの大逆転」開催報告
- ネパール地震災害調査（第2次）報告
- 現地見学会「九州の水環境を知ろう」開催報告
- 佐賀県防災・災害情報アーカイブプロジェクト会議開催報告
- 講演会「集中豪雨による低平地の災害と対策」を開催
- ラムサール条約登録湿地「肥前鹿島干潟」での取り組み

本センターは、「低平地・沿岸海域」を切り口とする国内唯一の学術研究機関として、有明海およびその沿岸低平地の諸問題はもとより、アジアの低平地研究の中核的拠点として広く研究成果を発信するとともに、恰好の研究・教育フィールドを活かした国際的・地域的な研究・教育を推進しています。

流域治水に関する勉強会の開催報告

平成27年10月2日（金）15:00～17:00に佐賀大学地域防災技術研究所主催による平成27年度第1回流域治水に関する勉強会が開催され、当センターの末次大輔准教授から「地盤工学分野における河川堤防に関する最近の研究」について話題提供がありました。

まず、浸透破壊や堤防土の力学的特性および評価、河川堤防の耐震性に関

する学界の研究動向について説明があり、次に、佐賀大学低平地沿岸海域研究センターで実施している河川堤防関連研究として、海水を原因とした固化処理土の劣化に関する研究について紹介がありました。今後の展望として、実地盤環境における固化処理土の劣化評価技術の開発が必要であるとともに、固化処理土の適用限界を検証する必要



性が述べられました。

出席者からは、実験条件下と実地盤環境下における劣化状態の乖離の程度

などについての質問がありました。また、実地盤環境下での劣化評価の必要性が再認識されるとともに、今後、各

組織が共通的に扱うべき低平地の課題として位置づける必要があるという意識共有が図られました。

ミニシンポジウム「クラゲがすくった水族館：どん底からの大逆転」開催報告

山形県鶴岡市にある加茂水族館は、クラゲ展示数 50 種類以上を常時飼育展示し、ギネス世界記録に認定された水族館であり、いまや世界で人気のある水族館のひとつとなっています。そんな加茂水族館も 1990 年代には入館者数の激減により閉館の危機に直面する時期もありました。しかし、ちょっとした飼育員の試みによって、その閉鎖の危機から脱却し、今や世界有数の水族館にまで成長しています。この度、その水族館の奥泉和也館長が九州に来られることを聞き、そのついでに講演をお願い出来ないと打診したところ、引き受けてくださったので、11月15日にミニシンポジウム（市民の科学講座～有明海学 2015 の特別講演としての位置付けも加えました）を開催しました。奥泉さんには加茂水族館のどん底から這い上がるまでいきさつについて語って頂くようお願いしました。

このような講演内容をお願いしたの

は、有明海科学を住民に伝えるための「科学コミュニケーションツール」としてどのように既存施設を活用していけば良いのか考えるためでした。低平地沿岸海域研究センターの COMPAS プロジェクトでは、現在、鹿島市やその地域団体と協働して、有明海に関するイベントを開催しています。その一組織として、有明海では唯一ビクターセンター機能を持つ鹿島市干潟展望館があります。この施設の一部は「佐賀大学干潟環境教育サテライトむつごろう館」として活用しています。この施設をいかに機能的に活用していくかは有明海科学の普及には重要な要素となります。加茂水族館の取り組みが参考になるのではとの思いからの開催です。

当日は、あまり宣伝していないにもかかわらず、41名の参加がありました。奥泉さんは1時間40分の長時間話されましたが、時間が短いと思えるほどの実の詰まった話をしてください

ました。他の施設のマネではなく、いかに自分たちの出来る独自路線を考えられるのかというのが一つのポイントだと感じました。

ミニシンポジウムでは、奥泉さんの講演の他、中村安弘さんによる鹿島市干潟展望館のここ数年間の取り組みを紹介して頂きました。また、藤井直紀助教からは、最近有明海で話題となっているビゼンクラゲの現状や、日本で初記載されたヒドロクラゲ類（キスイクラゲ、マメヨドクラゲ）の紹介もあるなど、とても充実したミニシンポジウムとなりました。



ネパール地震災害調査（第2次）報告

11月21日（土）から11月25日



（木）に、本センターの末次大輔准教授が2回目となるネパール地震の被害調査を行いました。調査メンバーは3大学（佐賀大学、高知大学、九州大学）、防災科学技術研究所および民間コンサルタントの産官学で構成されています。

今回の調査では、特に道路施設の被災状況と復旧状況の詳細な調査を行いました。カトマンズ市内は震災による

瓦礫の撤去もずいぶん進んでいましたが、世界遺産となっている寺院や旧市街地ではまだ復旧の手が入っていないところも多く見られました。ネパールは現在エネルギー危機に陥っており、開店する予定すら分からない給油所にダンプ、バイクの長蛇ができています。前回調査のときは違った混乱が起きていました。また今回の調査で

は今後の継続した調査研究や技術支援を行うために、トリバン大学工学部の土木工学科ならびに水力発電の開発を目的とした研究機関である Hydro Lab を訪問して、ネパール国内の復旧・復興に関連する研究協力や技術支援、学生を含む人材交流などをテーマに意見を交わしました。



現地見学会「九州の水環境を知ろう」開催報告

11月27日(木)に日本水環境学会九州沖縄支部主催、低平地沿岸海域研究センター後援による、「九州の水環境を知ろう～佐賀の水環境(2)」と題した現地見学会を実施しました。今回の見学会は、低平地佐賀の特色ある水環境や生態系を知ることによって水環境への意識を高めてもらうとともに、環境問題への知識向上を図り、健全な水環境の保全に寄与することを目的としたものです。見学地は佐賀の水環境・生態系・

治水・利水に関わる施設や現地であり、6箇所もの場所を周りました。参加者は13名で、その内訳は、大学関係者5名、学生6名、一般2名でした。

まず、さが水ものがたり館を訪問し、当センター・山西教授から佐賀・低平地の伝統的な治水技術について学びました。次に、佐賀市浄化センターに移動し、職員の方々に水処理の過程を丁寧に説明していただきました。ここでは、処理水を活用してノリの養殖場へ栄養塩を供給しているほか、メタンガスの有効利用、下水汚泥の堆肥化が行われており、バイオマス産業都市として先進的な取り組みがなされています。干潟よか公園では、九州の代表的な塩生植物である紅葉したシチメンソウを鑑賞しながら昼食を頂きました。佐嘉漁港では、漁船でノリ漁場に案内して



いただき、養殖場と摘採作業を間近で見学したのち、ノリの製造・加工場へ移動し、乾海苔となって出荷されるまでの行程を見せていただきました。最後に佐野常民記念館では世界遺産である三重津海軍所跡を歩き、5箇所の見どころポイントに到着すると音声ガイドと映像が流れるVR-SCOPEを覗きながら、幕末佐賀藩の成し遂げた偉業に想いを馳せました。最後まで和気藹々とした雰囲気の中、多くの質問が飛び交い、大変有意義な見学会となりました。



佐賀県防災・災害情報アーカイブプロジェクト会議開催報告

12月10日(木)に理工学部6号館多目的セミナー室において、佐賀大学地域防災技術研究所(所長:山西博幸教授/副センター長)と連携して、「佐賀県防災・災害情報アーカイブプロジェクト会議」を実施しました。このプ

ロジェクトでは、佐賀県内の国交省の出先機関や県内各自治体に保管されている防災や災害に関連する情報を、当センターを拠点として集約・電子アーカイブ化し、それらを佐賀県内の防災に関連する調査研究や自治体の防災行



政に提供したり、佐賀県内の防災・災害関連情報を市民に分かりやすく公開したりするための活動を行っています。今回の会議では、末次大輔准教授より、現在作成中の佐賀県防災・災害情報デ

ータベースシステムについて説明があり、検索システムや収録した資料についての意見交換を行いました。今後も継続して資料収集を行うとともに、一般の方への提供の仕方について継続し

て議論していくこととなっています。本システムは来年3月中旬に公開される予定です。

講演会「集中豪雨による低平地の災害と対策」を開催

「集中豪雨による低平地の災害と対策」をテーマとした講演会を、12月18日(金)に低平地研究会との共催で開催し、県内外から技術者や行政担当者42名が参加しました。講演会ではまず村上哲氏(茨城大学准教授)より「低平地における気候変動と地震や地盤沈下に起因する複合災害」と題し、10月に発生した鬼怒川の破堤により大規模な水害の調査結果の報告と、東南アジアの低平地地帯の地盤沈下と浸水被害を取り上げ、災害に強いレジリエンスな地域づくりの考え方、および

地盤工学は果たす役割について説明されました。次に、江頭聖司氏(佐賀市水問題対策室室長)より「佐賀市における浸水対策と今後の課題への取り組み」と題し、佐賀市排水対策基本計画を基にした事業の展開と今後の課題への取り組みについての報告がありました。今回の講演会には行政からの参加者も多く、防災に関連する新しい技術を積極的に導入していく必要性や、浸水対策における新しい評価指標の重要性について意見が交わされました。今年度は1月および2月に低平地の基盤整備

に関連して、「地盤環境とICT」および「社会基盤のメンテナンス」をテーマとした講演会を予定しています。



ラムサール条約登録湿地「肥前鹿島干潟」での取り組み

有明海の環境行政にとって今年は重要な年になりました。それは佐賀県の2カ所の干潟(東よか干潟、肥前鹿島干潟)がラムサール条約登録湿地になったことです。当センターの有明海科学コミュニケーションを実践しているグループでは、以前から鹿島市との連携があることから「肥前鹿島干潟」に

関連した活動に参画しています。例えば、11月8日には日本クロツラヘラサギネットワークが主催する「クロツラヘラサギが結ぶ日韓交流 in 鹿島」の後援をし、そのなかで行われた現地観察会では肥前鹿島干潟について紹介しました。また、11月14日には鹿島市主催による肥前鹿島干潟ラムサール条

約登録記念イベントが開催され、藤井直紀特任助教が地域の方々とパネルディスカッションを行いました。その他にも小学生向けの生き物観察会などに参画しました。今後も、調査などを実施して参りますので、どうぞご協力ください。

● ● ● 編集後記 ● ● ●

12月になって寒くなってきました・・・と言いたいところですが、今年は暖冬ですね。いつもより寒さ対策しなくても良い日が続いているのではないのでしょうか。寒がりの私も今年は比較的薄着で、過ごしています(でも、12月はじめに風邪をひきました)。「暖かい」という現象はどうやら有明海も同じなようです。年末だと平年11℃を切る水温が今年は13℃台です。海苔養殖にとっては「赤腐れ病」が心配されます。果たして、年明けはどうなるでしょうか。(藤井)

発行・編集

佐賀大学低平地沿岸海域研究センター

〒840-8502 佐賀市本庄町1番地

TEL 0952-28-8582 0952-28-8846

FAX 0952-28-8189 0952-28-8846

E-mail ilt@ilt.saga-u.ac.jp

ホームページ <http://ilt.saga-u.ac.jp>